



衣川 実介

渡来人いずこより 『宮山古墳』

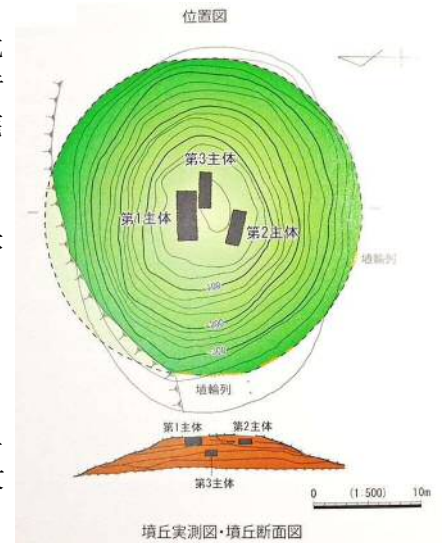
「宮山古墳」は市川の左岸、JR山陽本線の南、姫路市四郷町坂元にあります。ここから北約2kmの所に、播磨国風土記の作成に関わった楽浪河内（さざなみこうち）の居住伝承のある姫路市飾東町佐良和（さろう）があり、北東には線路を越えたところに国分寺跡があります。旧の山陽道が線路に平行して東西に通じ、一里塚の標識が残されています。南には白鳳時代の見野廃寺をはじめ見野群集墳、長塚古墳があり、古くから栄えたところでした。

宮山古墳は5世紀後半の直径約30mの大型円墳で3基の竪穴式石室がありました。昭和44年からの発掘調査で、石室が第3主体→第1主体→第2主体の順で作られたことが判りました。第1主体は盗掘されていましたが、第2主体からは、金の垂飾付耳飾（すいしょくつきみみかざり）銀錯貼金環頭大刀（ぎんさくてんきんかんとうち）、40振りもの刀剣類など多数の遺物が出土しました。さらに、その下から第3主体が発見され、画文帯神獸鏡（がもんたいしんじゅうきょう）や玉類などが出土しました。金銅帯金具のほか小玉など約一万点にもおよぶ玉類が出土し、これらは国指定の重要文化財になっています。

被葬者は5世紀後半に姫路周辺を支配した首長の墳墓で、特別展「渡来人いずこより」ではこれらの遺物が韓半島、加耶（かや）から持ち込まれたものであろうと推測されていました。加耶（かや）は半島南部の洛東江西岸地域に勢力をもった複数の国の総称です。金官国（金官加耶）、伴跛国（大加耶）、多羅国、安羅国（阿羅加耶）、小加耶などに分かれ、それぞれ王墓群を形成しました。さらに、加耶は鉄を豊富に産出し、中国の文献「三国志」にも現れる鉄を基礎に発展した、まさに鉄の王国です。小国の集合であったため、統一した力を発揮できず次第に新羅や百済に浸食されてゆき、532年には金官国が、562年には伴跛国が新羅に併合され、加耶の歴史に幕を閉じました。

姫路市埋蔵文化財センター（愛称 まい姫）が2005年11月12日（土）にオープンしました。その開館記念として、特別展「宮山古墳」が開催された時のこと。初めて目にした立派な『銀錯貼金環頭大刀』と共に環頭大刀や多くの鉄刀が展示されていました。甲、冑、槍、鏃などの鉄製武器、鋤先、鉄斧、鉄の刀子、鉄鋌（てっぺい）、たくさんの鉄製品を見たので、学芸員の方に『刀剣類など鉄器の重量はどれくらいあったのですか？』と聞くと、『何点かは重量を確認したものもありますが、全体は計測していません。』との回答でした。

墳丘実測図



銀錯貼金環頭大刀



垂飾付耳飾



参考図書

特別展 渡来人いずこより 大阪歴史博物館 図録 2017.04.26

国指定重要文化財 宮山古墳出土品 姫路市教育委員会 2016.03.31



『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

ホームページと電子メールをご利用ください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
ryou@memenet.or.jp